

研究主題「英語の語いをすすんで学習しようとする指導方法の工夫」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
大田区立大森第二中学校 教諭 多田 渉

I 研究のねらい

新中学校学習指導要領（平成20年3月告示）では、指導すべき語が1200語程度の語となり、現行の900語程度よりも語いが増加し、語いの指導を充実することが求められている。

また、生徒の現状を見ると、授業の中で様々なコミュニケーション活動を通して学習した語いであっても、生徒の定着度には大きな差が見られる。そして、習得しなければならない語いが、学習が進むにつれ累積することで、学年が進行するにしたがって徐々に定着率が下がり、語いの不足から豊かなコミュニケーションが十分に成立しなくなるという課題がある。

そこで、本研究では、「英語の語いの学習」に着目し、語いの習得に対する生徒の意欲を高める効果的な指導方法を開発することとした。

II 研究の内容と方法

1 研究仮説

上記のねらいを達成するために、以下の仮説を立てて検証する。

発音、つづり等が共通した語をグループ化して語いの指導を行えば、生徒は意欲をもって語いの学習に取り組むであろう。

2 研究の内容と方法

(1) 基礎研究

① 発音とつづりの関係の活用

新中学校学習指導要領には、発音とつづりとを関連付けて指導することが新たに盛り込まれた。この趣旨を生かすためには、発音とつづりとの関係が分かる基本的な語いの例を、生徒が理解できるように示す必要がある。

② 発音、つづり等が共通した語をグループ化する意義

中学校の英語の授業では、通常、教科書に出て来た順番に語いを指導しており、発音とつづりとを関連させて指導することはあまり行われていない。そのため、生徒は新出語いを一語ずつ単独で学習しており、コミュニケーション活動を中心とした指導だけでは、生徒の語いに関する知識は定着しにくい状況がある。

そこで、ある語を他の語と関連付け、共通点を明確にしてグループ化することで、効率よく語いを学習・習得できると考えた。

③ グループ化の具体例

語いの共通点を発音、つづり、文字数、品詞とした。

表1 グループ化の具体例

- つづりが a で [æ] の発音の語い（3文字）
（名詞） bag can cat dad fan gas man map
- つづりが i で [ai] の発音と最後が発音しない e の語い（4文字）
（名詞） bike life line mine nine rice time
- つづりが e a で [i:] の発音の語い（5文字）
（名詞） dream peace （動詞） leave reach speak

(2) 調査研究

検証授業前に、都内公立中学校の第2学年の生徒（4学級、計127人）に対して、英語の語いについての知識を測るテストと、質問紙による語いの学習に関する意識調査を行った。

① 語いについての知識を測るテストの結果

日本語に相当する英語の語いを選ぶ設問では、90%の生徒が満点であった。しかし、日本語を英語に直す設問では、基本的な語いにもかかわらず、平均正答率は49%であった。

しかも、50%の生徒の解答に1か所以上の無解答があり、22%の生徒が1問も日本語から英語に直すことができなかった。

② 語いの学習に関する意識調査の結果

72%の生徒は、語いを覚えることに困難を感じている。74%の生徒が、語いの学習の一番の困難な点は、つづり、意味や使い方を覚えることであると答えている。

しかし、語いの学習に取り組んでいる生徒は35%で、53%の生徒が「語いの学習は今の授業のままで十分である」と答えており、語いの学習に対する意識は十分とは言えない。

また、つづりをローマ字読みして覚えている生徒が57%と半数を越えており、正しい発音を使ったつづりの習得を指導する必要がある。

(3) 授業研究

平成20年10月20日(月)から31日(金)までの8日間、都内公立中学校の第2学年の生徒(2学級、計65人)を対象に、1学級につき各10分の指導を6回実施した。

① 開発した教材と使用方法

ア 語いの発音とつづりの関係に着目させる練習シート（【ア】のシート）

グループ化した語いの発音とつづりの関係に着目させ、共通点を認識させるために、本シートを開発した。

本シートは、生徒に語いを一語ずつ書かせ、1回目の指導のステップ2で使用する。語いを発音させながら「一部なぞる→なぞる→なぞって一部書く→よく見て書く→見ないで書く」といった練習をさせることで、発音とつづりを習得させる。

表2 語いの発音とつづりの関係に着目させる練習シート（【ア】）

なぞる 一部	b a g	c a n	c a t	d a d	f a n	g a s	m a n	m a p
	か ば ん	か ん	ネ コ	父 さ ん	フ ァ ン	ガ ス	男 性	地 図
なぞる	b a g	c a n	c a t	d a d	f a n	g a s	m a n	m a p
一部 なぞって 書く	b g c n c t d d f n g s m n m p							
よく 見て 書く	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____

イ 語いの使い方に着目させる練習シート（【イ】のシート）

各語いのつづりや意味だけではなく、語いの使い方も理解させるために、本シートを開発した。

本シートの例文は、教科書にある語いを用いて作成し、毎回の学習で使用することで、目標の語いだけでなく例文も習得させる。また、グループ化した語いの共通点に着目させ、8つの語いを記入させることで、つづりと意味を確認させる。

表3 語いの使い方に着目させる練習シート【イ】

① My bag is new. (私の _____ は新しいです。)	① <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> (かばん)	② <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> (かん)	③ <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> (ネコ)
② That can is red. (あの _____ は赤いです。)	④ <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> (父さん)	「共通点」は ・ 3文字 / 4文字 / 5文字 ・ 名詞 / 動詞 / その他 ・ 発音: _____ が同じ「ア・エ」	
③ Do you have a cat? (あなたは _____ を飼っていますか。)	⑤ <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> (愛好家、ファン)	⑥ <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> (ガス、ガソリン)	⑦ <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> (男性、人)
④ He is my dad. (彼は私の _____ です。)	⑧ <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> (地図)	⑦ The tall man is Tom. (その背の高い _____ はトムです。)	⑧ Where am I on this map? (この _____ で私はどこにいますか。)
⑤ She is a baseball fan. (彼女は野球の _____ です。)			
⑥ Gas is dangerous. (_____ は危険だ。)			

② 開発した指導方法

本研究では、グループ化した8つの語いを、3回に分けて指導することで定着をより確かなものとする。1回の指導は約10分間、3回の指導で1サイクルとし、授業の始めに実施する。語いを聞き、話し、読み、書かせることで、授業のウォーミングアップも兼ねる。

また、1回の指導を3つのステップで構成し、繰り返し学習させることとした。

1 サイクルの授業の流れと内容	1 回目 の指導 (10分)	【発音とつづり】	ステップ1	① 8つの語いを提示し、発音と意味を思い出させる。 ② 8つの語いの共通点を考えさせ、発表させる。
			ステップ2	① 8つの語いの一斉読みをさせる。② 個人で読みの練習をさせる。 ③ 【ア】のシートを使って語いの書き取り練習をさせる。
			ステップ3	① 8つの語いの一斉読みをさせる。② 【イ】のシートについては家庭での学習課題とし、語いの文中での使い方も理解させる。
	2 回目 の指導 (10分)	【語いの使い方】	ステップ1	① 前回の【イ】のシートをグループ内で相互に採点させる。 ② 8つの語いの一斉読みをさせる。
			ステップ2	① 例文をよく聞かせる。② 例文の一斉読みをさせる。 ③ 【イ】のシートの例文の書き写し練習をさせる。
			ステップ3	① 8つの語いの一斉読みをさせる。② 【イ】のシートについては家庭での学習課題とし、語いの文中での使い方も深めさせる。
	3 回目 の指導 (10分)	【語いの定着】	ステップ1	① 前回の【イ】のシートをグループ内で相互に採点させる。 ② 8つの語いの一斉読みをさせる。
			ステップ2	① 語いのテスト勉強を各自で行わせる。② 時間内で【イ】のシートの例文を使った小テストに取り組みさせる。③ 解答用紙を提出させる。
			ステップ3	① 8つの語いの一斉読みをさせる。② 【イ】のシートについては家庭での学習課題とし、語いの文中での使い方も習得させる。

Ⅲ 研究の結果と考察

都内公立中学校の第2学年の生徒(2学級、計62人)に対して、本研究の検証授業実施後に英語の語いについての知識の定着を測る小テストと、検証授業後の意識の変容を見るために質問紙による意識調査を行った。

1 定着度確認「小テスト」の結果

(1) 語いの習熟の向上

90%の生徒が、日本語を英語に直す設問で満点を獲得し、満点でない生徒も全員が60%以上の得点を収めた。また、1問も日本語から英語に直せない生徒は解消された。

(2) 無解答数の減少

事前のテストでは、50%の生徒が1か所以上の設問に無解答であったが、検証授業後の定着度確認「小テスト」では、95%の生徒が全設問に解答することができた。

以上(1)、(2)から、本研究は、学習が遅れがちな生徒の自信にもつながったと考えられる。

2 検証授業後の意識調査の結果

(1) 語いの学習に対する生徒の学習意欲の高まり

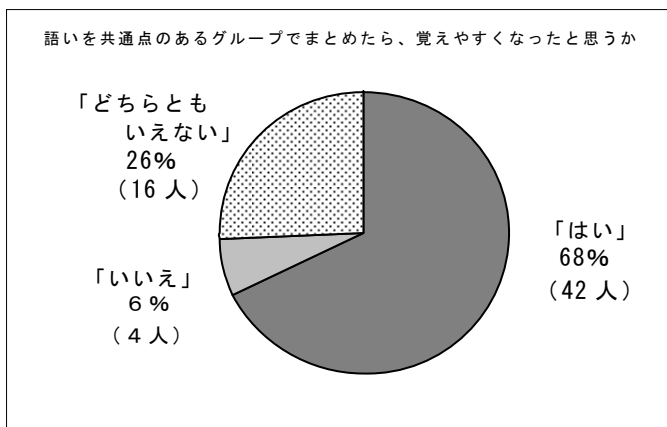


図1 語いのグループ化について

図1に示したように、「共通点のあるグループでまとめたら、覚えやすくなった」と68%の生徒が答えており、共通点のある語いをグループ化して覚えると効率がよいことを生徒が理解したと考える。

また、今回の語いの学習が、「授業全体のウォーミングアップになった」と70%の生徒が答えており、その後の授業展開にも効果的であったと考える。

さらに、ローマ字読みでつづりを覚えて

いた生徒の95%が、「発音の規則性が、分かるようになってきた」または「知らない語いも、類推すれば読めそうな気がしてきた」と答えており、発音とつづりとを関連付けた指導が、語いの学習には重要であることを示していると考えられる。

(2) 語いの学習の必要性の理解の促進

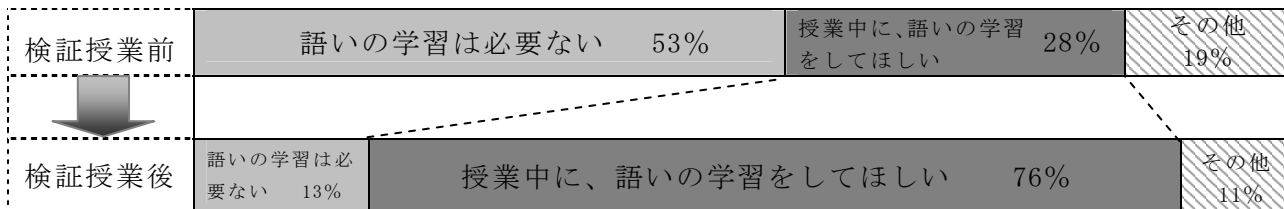


図2 語いの学習の必要性について

図2に示したように、検証授業後の意識調査から、

「これからも授業中に、今回のような語いの学習をしてほしい」と答えた生徒が76%となり、検証授業前と比べ大幅に割合が増加した。語いの指導を授業に計画的に導入したことで、生徒は、語いの学習の必要性及び重要性を理解した。

このことから、効果的な語いの指導は、生徒の英語に対する関心・意欲を高め、英語の学力の向上を期待することができると思う。

IV 今後の課題

授業中の10分間を語いの学習に当てるためには、他の指導内容に影響しないように指導計画を綿密に作成する必要がある。また、生徒の学習の習熟に関係なく、より意欲的に取り組めるように、語いの学習にゲーム性等の工夫を加えるとともに、学習の進んでいる生徒にはさらに英語の全般的な学力を伸ばすための指導が必要である。

表4 意識調査における生徒の自由記述の代表例

- 語いを学習することは、とても大切だと思った。
- 忘れかけていた語いを思い出させてくれた。
- まとめたものを何回も発音したり書いたので、とても覚えやすかった。
- 発音とつづりの関係を知ることによって語いが覚えやすくなったので、びっくりした。

研究主題「英語の語いをすすんで学習しようとする指導方法の工夫」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課

大田区立大森第二中学校 教諭 多田 渉

【補助資料1】 検証授業前の語いについての知識を測るテストとその結果

検証授業前の語いについての知識を測るテスト

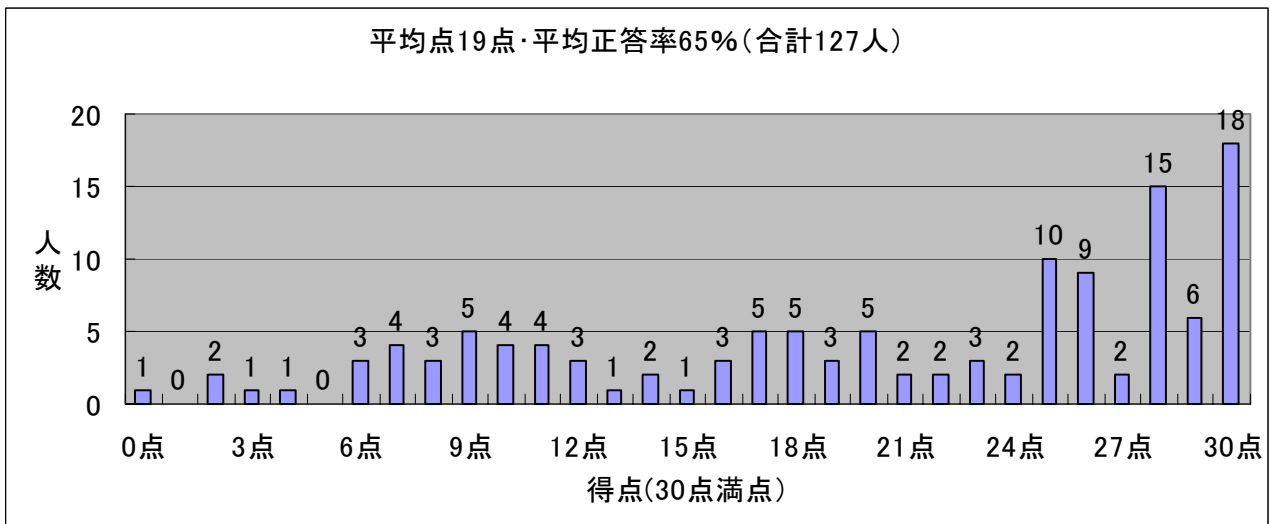
【1】 1～10の日本語の意味を表す英語を①～⑥の中から選び、その番号を [] の中に書きなさい。〔1点×10〕

1	2月	[]	①February ②December ③March ④January ⑤November
2	10月	[]	⑥October
3	～を始める	[]	①go ②buy ③come ④begin ⑤ask ⑥change
4	～を買う	[]	
5	忙しい	[]	①often ②sometimes ③always ④usually ⑤busy ⑥hard
6	ときどき	[]	
7	1時間	[]	①our ②home ③lake ④hour ⑤head ⑥hand
8	湖	[]	
9	40	[]	①fifteen ②forty ③five ④fifty ⑤four ⑥fourteen
10	50	[]	

【2】 次の1～10の日本語を、英語1語に直して下線部に書きなさい。〔2点×10〕

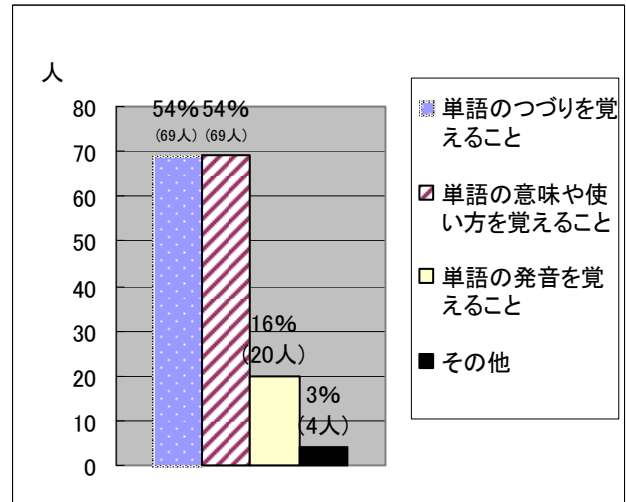
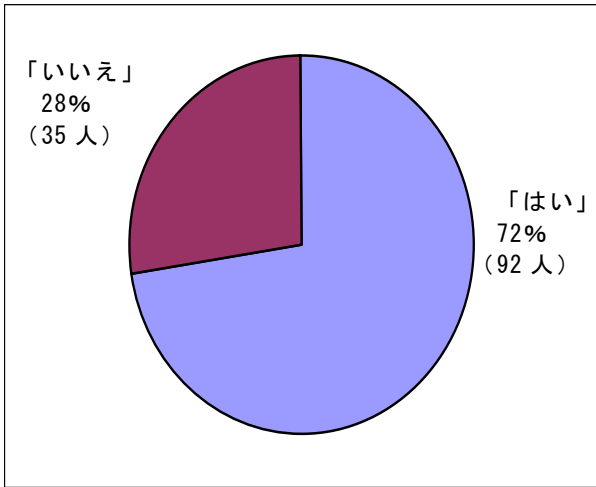
- | | | | |
|-----------|-------|---------|-------|
| 1 赤、赤い | _____ | 2 学校 | _____ |
| 3 勉強机 | _____ | 4 冬 | _____ |
| 5 ～を好む | _____ | 6 ～を楽しむ | _____ |
| 7 ～を知っている | _____ | 8 ～を読む | _____ |
| 9 私たちの | _____ | 10 私のもの | _____ |

検証授業前の語いについての知識を測るテストの結果

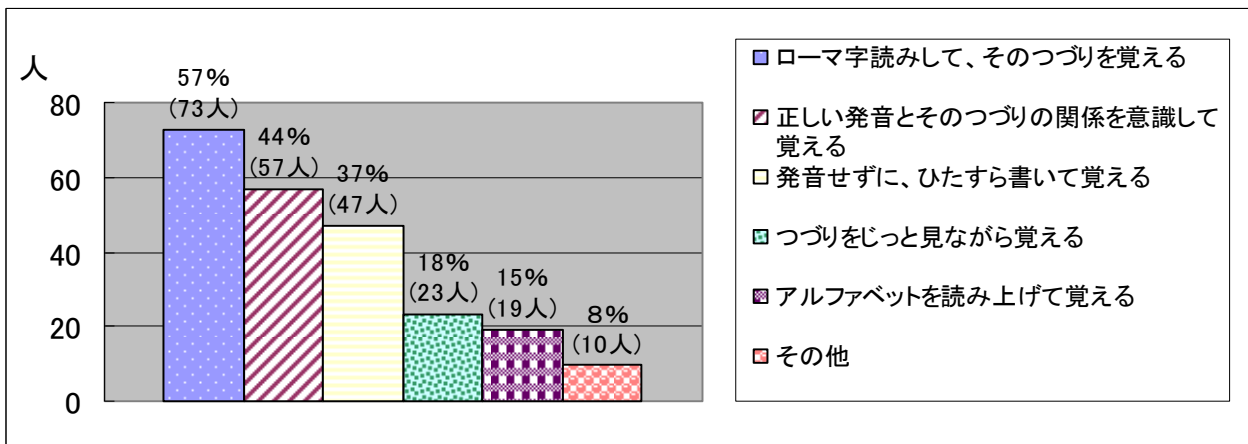


【補助資料2】 検証授業前の語いの学習に関する意識調査とその結果

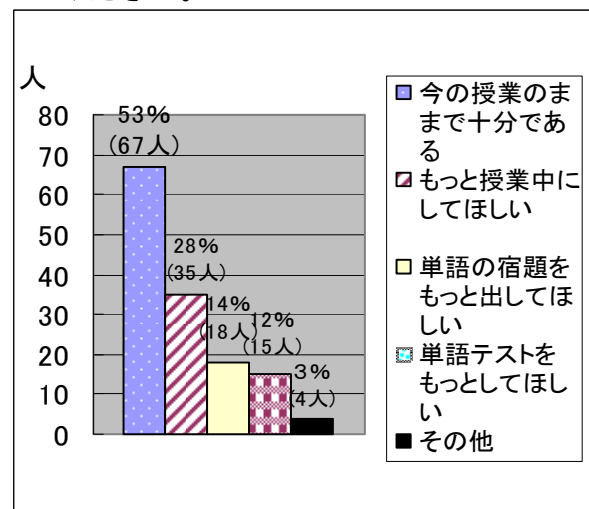
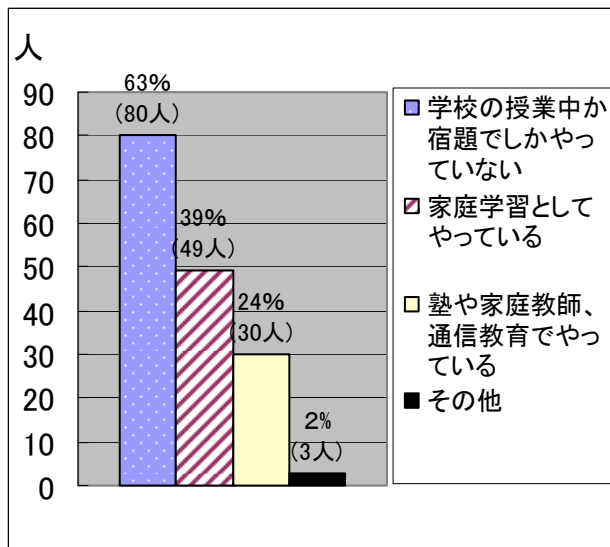
- 1 あなたは、英語の単語を覚えるのに困っていますか？ 「はい」「いいえ」のどちらかを○で囲んでください。
- 2 単語を覚えることで困っていることは何ですか？当てはまるものをすべて○で囲んでください。



- 3 単語のつづりをどのように覚えていますか？当てはまる記号をすべて○で囲んでください。



- 4 単語の学習をしていますか？ 当てはまる記号をすべて○で囲んでください。
- 5 授業中にもっと単語の学習をしてほしいですか？当てはまる記号をすべて○で囲んでください。



【補助資料3】 検証授業後の定着度確認「小テスト」とその結果

検証授業後の定着度確認「小テスト」

(1) 共通点を思い出し、①～⑧の文の下線部を表す単語を、() 内に書き込みなさい。

① My () is new . (私の かばん は新しいです。)

② That () is red . (あの かん は赤いです。)

③ Do you have a () ?

(あなたは ネコ を飼っていますか。)

④ He is my () . (彼は私の 父さん です。)

⑤ She is a baseball () .

(彼女は野球の ファン です。)

⑥ () is dangerous . (ガス は危険だ。)

⑦ The tall () is Tom .

(その背の高い 男性 はトムです。)

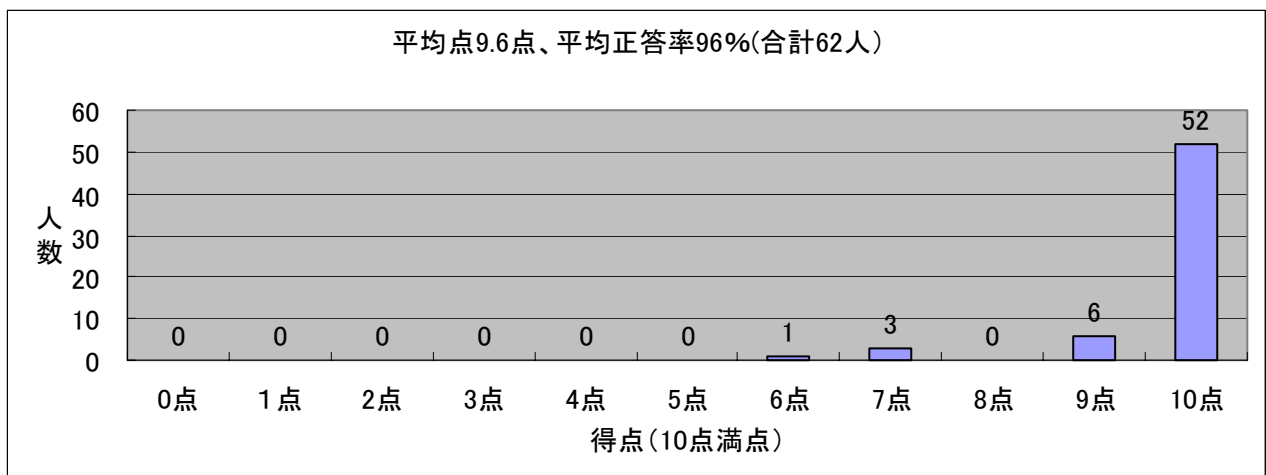
⑧ Where am I on this () ?

(この 地図 で私はどこにいますか。)

(2) 上の①～⑧までの下線部の英語と共通点のある別の単語を知っていれば、いくつでも書きましょう。

() () () ()

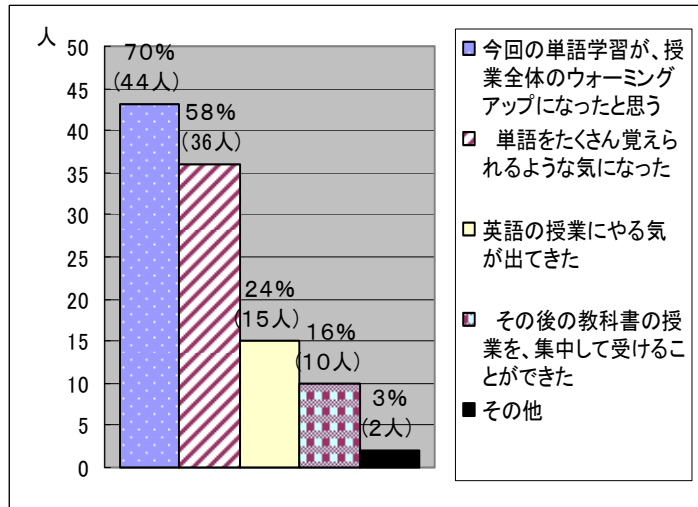
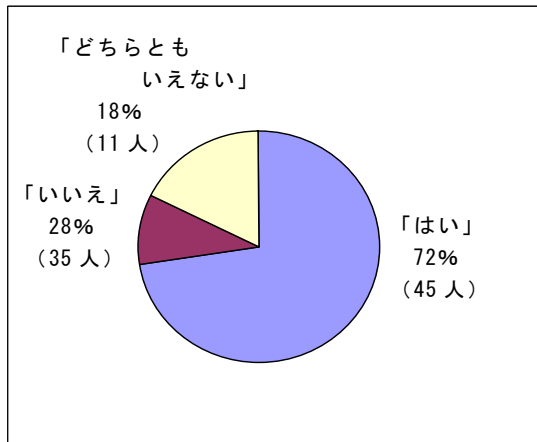
検証授業後の定着度確認「小テスト」の結果



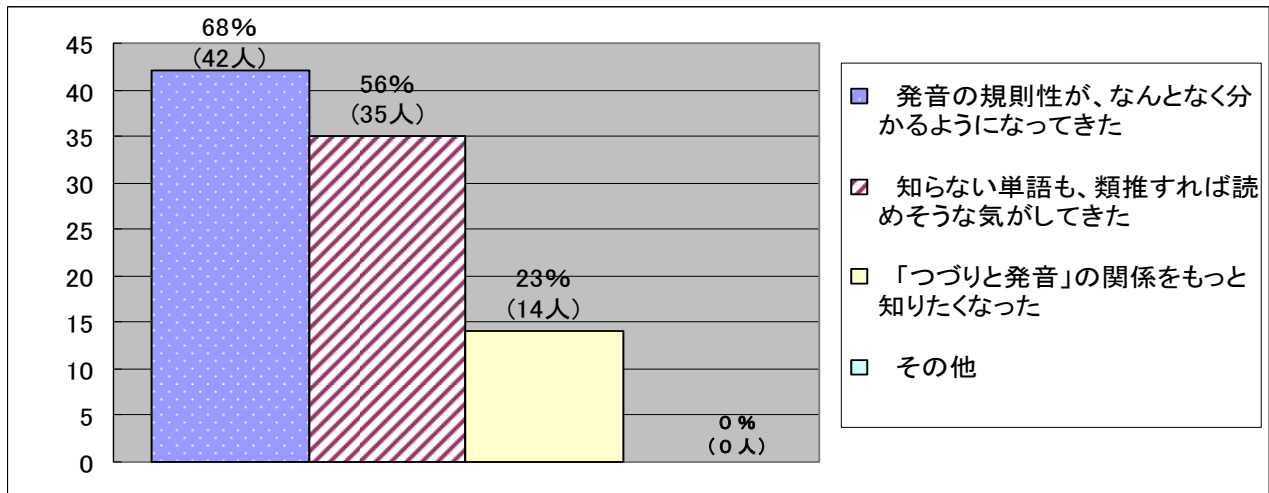
小テストの設問(2)で「共通点のある別の単語を知っていれば、いくつでも書きましょう。」と補足したところ、24% (15人) の生徒が関連のある語いを記入した。

【補助資料 4】 検証授業後の語いの学習に関する意識調査とその結果

- 1 正しい発音とつづりを意識したら、単語を覚えやすくなったと思いますか？当てはまる記号を1つだけ○で囲んでください。
- 2 今回の単語学習を行ったことで、当てはまる記号をすべて○で囲んでください。



- 3 今回の単語学習に関連して、当てはまる記号をすべて○で囲んでください



- 4 今回の単語学習について、感想を書いてください。

- 規則性が分かったので、他の単語にも使えそう。
- 分かりやすく、単語の読み方が分かってきた。
- 発音に気をつけることができた。
- 短い時間だったが、いろいろな単語が身に付いた。
- 今まで知らないことも分かった。
- 単語の覚え方が分かってよかった。
- 分からない単語も覚えられてうれしい。
- 覚えるのが苦手だったけど、単語に興味をもった。
- 短い授業もとても楽しかった。
- 今回の勉強をテスト勉強でも使いたいと思った。
- 時間が少なかったなので、もうちょっと時間があつたほうがよかった。